

生産者部会について

ガーデンを考える会 会長
水野 隆



ガーデンを考える会は設立時から今日に至るまで、会員の主体はほぼメーカー企業で構成されており、園芸生産の主役である生産者からの入会は殆どありませんでした。このため、会の主催する展示会やセミナー、勉強会、等々は、必然的に会員企業メーカーのための内容となっています。

会が発足してから今日に至るまでに、ガーデンを軸とするビジネス状況は大きく変化し、残念ながらマーケット規模は縮小の方向に向かっています。世界的に先進国の経済状況が沈滞する中では、ガーデンビジネスもその影響を受けて当たり前と言えればそれまでですが、今日の閉塞的な状況を打破し、ガーデンビジネスの活性化を図るには、更に幅広く業種・業態を超えて手を結び、様々な英知を結集することこそが必要であると考えています。

特にガーデンを構成する上で最も重要な要素である植物には、単に花が綺麗というだけでなく、地球温暖化をセーブするためのCO²の抑制など、人に対して様々な恩恵を与えてくれています。

この植物を生産し、我々に供給してくれているのが生産者で、その殆どが家族経営を主体とした零細な規模です。園芸先進国の欧米に比べ特徴的なのは、経営規模の小ささと生産者数の多さです。しかも、市場出荷がメインの販売形態を取っている生産者が大勢で、自分の商品価格を自分で決める事さえもままならない環境です。更に、ここ数年来、販売価格の低下圧力は年々高くなり、経営の持続さえも危ぶまれる状況になってきています。このため、販売戦略には欠かせない新商品の開発やマーケティングなど、メーカーとして当たり前のことすら殆ど手をつけられないのが現状です。

このような生産者の状況こそが、園芸全般を沈滞化している要因の一つとの指摘もあるようです。

このためガーデンを考える会では、本年度より新たに生産者部会を事業部に新設し、まだまだ脆弱な経営体質の生産者のバックアップを図りながら、ガーデンを軸とするビジネスには何が必要なのか、また、ガーデンビジネスの活性化を図るにはどうすべきなのかを、従来からの会員の皆様と新たに加わった生産者の皆様とで、一緒になって考えていきたいと思っています。このような活動の取り組みの中から新しいコミュニケーションが生まれ、新しいビジネスの仕組みや、幅広いネットワークが発展していくことを期待できると考えています。

新たに設立された生産者部会は、関西・中部・関東と全国を3ブロックに分かれ、現在の会員数は30名程度になっています。生産者部会の活動は、会報誌カエデによって随時報告する予定でいますので、会員の皆様におかれましては、今までにも増して幅広いご協力をお願い申し上げます。



新会長に水野隆氏など体制一新

当会（会員109社・人）は、6月8日午後、東京・メルパルク東京会議室において、平成22年通常総会を会員等約60名出席のもと開催しました。

総会は、嶋崎福壽理事（フラワーオークションジャパン）の司会により進められ、小塚会長挨拶に続き、環境省の水谷泰史自然環境局総務課課長補佐は来賓挨拶の中で「生物多様性基本法を作り、それに基づく生物多様性国家戦略2010を今年3月に作った。COP 10を契機として生物多様性の持続可能な利用を社会経済活動に組み込むような社会の実現に向けた施策の充実に引き続き力を入れていく」旨のべられた。

高岡伸夫副会長（タカショー）が議長となって審議は進められましたが、21年度事業では、今、業界で最も注目度の高い「ポタジェガーデン」について全国4会場でのセミナーなど、6回のセミナー、研修会の報告がありました。

22年度事業計画では、年数回のセミナーを開催するとともに、商談会「ガーデントライアル IN 蓼科2010」を9月28～30日、バラクライングリッシュガーデンにおいて開催することになりました。

役員改選では、小塚会長、高岡副会長、水野隆副会長（ハクサンインターナショナル）体制から、水野隆会長、丸山盛生副会長（アップルウェア）、佐藤健一副会長（E&Gアカデミー）となりました。



役員改選で就任した理事

新規入会会員

正会員 6社

(有)グリーンパル	愛知県岡崎市（用土メーカー）
(株)東和コーポレーション	福岡県久留米市（手袋メーカー）
中島商事(株)	愛知県豊明市（園芸資材メーカー&卸）
(株)ハクサン	愛知県日進市（種苗商社・卸）
(株)芳樹園	新潟県新潟市（園芸卸）
(株)ヤマトコーポレーション	静岡県焼津市（園芸肥料・用土メーカー）

個人会員 29人

荒木 祥充	愛知県田原市（植物生産）	鈴木 啓文	三重県四日市市（植物生産）
市村 剛	茨城県鉾田市（植物生産）	高見 昌伸	兵庫県加西市（植物生産）
市村 優	茨城県鉾田市（植物生産）	田島 俊明	埼玉県本庄市（植物生産）
牛田敏良史	愛知県愛西市（植物生産）	所 明	岐阜県大野町（植物生産）
江尻 充由	長野県伊那市（植物生産）	鳥山 和義	愛知県南知多町（植物生産）
大塩 芳弘	兵庫県姫路市（植物生産）	長谷川直哉	茨城県茨城町（植物生産）
小関 正司	岐阜県加茂郡（植物生産）	初見 欣信	茨城県古河市（植物生産）
片山 直人	兵庫県丹波市（植物生産）	林 博俊	群馬県沼田市（植物生産）
加藤 源正	山梨県南都留郡（植物生産）	三井 優生	兵庫県丹波市（植物生産）
小林 孝之	埼玉県深谷市（植物生産）	山口 順治	兵庫県稲美町（植物生産）
近藤 雄三	愛知県半田市（植物生産）	山崎 秀之	兵庫県稲美町（植物生産）
杉本 隆則	兵庫県養父市（植物生産）	吉田 茂雄	兵庫県多可町（植物生産）
鈴木 武志	愛知県西尾市（植物生産）	吉田 善幸	埼玉県鴻巣市（植物生産）
鈴木ちひろ	茨城県古河市（植物生産）	渡辺 吾郎	山梨県富士河口湖町（植物生産）
鈴木 寿久	愛知県碧南市（植物生産）		



カエデ
kaede

全国オープンガーデンフォーラムin Awaji

350名余が参集して盛大に

オープンガーデンの広がり可能性を求め、4月17・18日に兵庫県の淡路夢舞台国際会議場を中心に「全国オープンガーデンフォーラム in Awaji」が淡路花博 10周年記念事業の一環として、兵庫県の19団体を始め全国から354名が参加し、盛大に開催された。主催は、兵庫県内でオープンガーデンを実施している市民が中心となって組織する全国オープンガーデンフォーラム in Awaji 実行委員会。

初日は会議場イベントホールで講演、パネルディスカッション、淡路宣言、兵庫県からの発信、また、ロビーでは、各地のオープンガーデンや協賛メーカーの紹介、交流会が展開され、2日目は兵庫県内のオープンガーデンを見学した。



講演する八ヶ岳倶楽部代表の柳生真吾さん

ジャパニーズ・モダン 江戸の粋

日本園芸フェスティバル、さいたま市で開催

江戸の文化が、若い女性も含めて見直される昨今、「～ジャパニーズ・モダン 江戸の粋～」をテーマに、4月29日から5月9日まで、さいたま市にあるさいたまスーパーアリーナをメイン会場に開かれ、7万を上回る人が江戸の粋を楽しんだ。

江戸園芸メイン展示では、川崎景太氏プロデュース「現代に伝わる『江戸の粋』」、山田香織氏プロデュースの「モダン BONSAI『彩花盆栽の世界』」、假屋崎省吾氏が日本庭園に初挑戦した「ジャパニーズ・モダン ガーデン」があり、そのほか坪庭コンテストや小品・寄せ植え盆栽コンテスト、販売ブースなどが、会場いっぱい繰り広げられた。



「穏やかな里山」。住まう人の温もりや朝の光、小鳥のさえずり、穏やかな里山の風景を彩花盆栽で表現(山田香織氏)

会員紹介

中村農園

環境緑化植物(グラウンドカバー)の生産を主体としており、木・草本類を始めとして最近では壁面緑化用つる植物類とマット栽培品の生産にも注力しています。

マット栽培品は一般的なポット苗と比較して製品規格が大きく(0.3m×0.6m)、初期完成度が高いため、住宅外溝や屋上緑化等特に竣工時の出来栄え・見栄えをより美しくするには欠かせない規格品質サイズです。

つる植物及びマット栽培植物は導入施工時に合わせて受注予約生産も可能です。特に1～2年先の導入量が多い物件等につきましては御希望の樹種や長さ等、御気軽にご相談いただければと思います。

お問合せ先

〒369-0214 埼玉県深谷市本郷2554
TEL : 048-585-0280
FAX : 048-585-0116
担当 : 山本
<http://www.nakamura-nouen.co.jp/>





コラム

生産者部会の今後



(有)岐大花だん 所 明

5月に水野会長の発案により生産者部会が設立されました。今回、東海、関西において市場流通を柱に経営している生産者が徴集され、部会を運営するに当たり今後の活動方針を検討しましたが「未だ底が見えない」「未来がイメージできない」といった意見が多く何も決まらず時間切れとなってしまいました。

生産者の集う部会は今回の部会に限らず、市場が運営する部会や行政が運営する部会など様々な部会があり、生産者はどこかに属しています。どの部会も残念ながら具体的な活動が見出せずマンネリ化が進み参加者が集まらないのが現状だと感じております。

今回、意見がまとまらなかった理由のひとつに「同じような部会にしたく無い」という想いが参加者一人ひとりにあったように感じます。

今回、コラムの執筆依頼を受け「生産者部会を発展させるためには」どのようにしたらよいかを私なりに考えてみました。

現在、植物生産者の評価は「市場で誰よりも高く売れている」「大手量販店と取引している」等々、小売媒体での評価が大半で、これらを上げることに必死になっています。

しかしながらいくら必死になっても業界は既に成熟期を迎えていることや他産業に比べあまりにも小さい市場規模のため、評価されても現在の経営状況はあまり変わらず、明るい未来は見えてこないのが現実だと感じております。

また、私たち植物生産者は日々限られた人間環境のなかで生活しています。そしてその環境のなかで評価されることに満足感や心地よさを覚えると同時に、自らを否定されることを恐れ、新たな出会いや刺激がめんどくさくなっています。

このような状況のなか、部会を発展させるためには「ガーデンを考える会」の会員特性を活かし、異業種の方々と積極的に意見交換することで、会員双方が刺激し合い、アイデアを出し合い「新たなグリーンビジネスを探索する志を芽生えさせる」ことが重要だと考えます。そして今までの部会とは違い、具体的にビジネスモデルを示し、営利に直結させることが個々の発展に留まらず「ガーデンを考える会」そして業界全体の発展に繋がると考えます。

浅はかな考えではありますが今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。



理事も参加して生産者部会ワークショップ



事務局だより

ガーデンを考える会
事務局 TEL052-571-7911
FAX052-571-2208

今年の春、安曇野のお花屋さんで3号ポットの草花を買ってきましたが、プラスチックの薄い外鉢が、そのお店ブランドのおしゃれな模様。花は10日余りで終わりましたが、外鉢だけは使いまわしています。